

27人のブラック・ジャック

副代表 谷川 勝男

不安と緊張のうちにはじまった北見版「ブラック・ジャックセミナー」は内視鏡、超音波メス、縫合糸、自動縫合器、整形など五つの部門

が二つ、三つと進むのにつれて、中学生たちの背に「真剣」がはりついていくように思われた。

全国のどんな教育現場にもないほどの真剣さ、必死さが伝わってくるようで感動させられた。

それは北見赤十字病院の医師、研修医、そしてジョンソン・エンド・ジョンソン(株)のスタッフの懇切で丁寧な指導がもたらしてくれたものだ。

初めに吉田院長のお話があった。いつものように一歩引くように静かでした。

い語り口が、ブラック・ジャックに挑戦しようとする中学生たちの気持ちをほぐして、くつろがせて下さった。

続く「外科医の仕事」の山口先生のお話は、ブラック・ジャックの由来も紹介されながら、いく重にも工夫がこらされていて、きわめて「専門」的なことをごく「普通」なこととして受け止められるようなお話のされようだった。

子どもでなくて、大人でもない中学生たちほど、期待に応えようとして生活している者はいない。つまり将来への夢を膨らませて生活しているということだ。

その夢への「期待」を正面からぶつけて下さった医師、研修医、スタッフの方

はセミナーの場で最高級の「教師」であったのだと、元中学校教師は受け止めて感動させられた。

事務部長さんは一人ひとりにゆっくり下さった。そのことが27人の中学生たちに、2016年11月6日(日)のセミナーの体現者としての実感を与えて下さったように思う。

「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」には高齢者の会員が多い。自ら、私は枯れ木のにぎわい」と口にする80代の女性もいる。

しかし年齢、「高齢」であることが何か目的をもって行動するときの障害にはならない。会の存在

から修了書が授与された。5人、10人と手渡されていくうちに、27人が大変な数なのだと思わせられた。しかし、

事務部長さんは一人ひとりにゆっくり下さった。そのことが27人の中学生たちに、2016年11月6日(日)のセミナーの体現者としての実感を与えて下さったように思う。

北見赤十字病院
ブラックジャック
セミナー

2016年
11月6日(日)
13:00~17:00

会場 北見赤十字病院 研修棟 2F
対象 中学生

主催 北見赤十字病院
協賛 北見市教育委員会

お問い合わせ先
北見赤十字病院 企画課
〒997-0001 北見市緑ヶ丘1丁目10-16
TEL/FAX: 0157-61-0684



「証」と受け止めてもらえればうれしい。

「人」、リーダーは必要で不可欠である。

代表逢坂信治。常に前向きに斬新な課題を提起し、実行、実践の上では率先垂範、労を惜しまない。会が誇る代表である。

事務局長阿久津俊子。事がはじまれば取り組みにあわせて多岐、多忙をきわめる諸事務、資料作り、記録に精魂を込めて当たる。信頼の人である。

1千万円単位の町内会費をかすめ盗った町内会会計者のニュースには驚かされたが、「1円」の管理も怠らないのが「支援する会」の会計阿部孝子である。

ともあれ「支援する会」は、この二年弱、「ブラック・ジャックセミナー」とはどんなことをするのか学ばせていただいた。

「高齢」にはめげないで、東京オリピックの時に活動を持続させていたものである。それが我々の唯一の念願である。

「私が感じたこと」北見で実現すれば、子どもたちにとっても、私たち、支援する会にとっても、なんて素晴らしいことでしょう。『その文章は終わっていません。』

編集後記

(逢坂)